

***親子で納得

ニュース・経済学

経済ジャーナリスト・内田裕子

「電池」を開発し新エネルギーを支える

いま、新しいエネルギーが注目されています。これまで人間はエネルギーを「石油」「石炭」「天然ガス」にたよってきました。これらは地下深くにねむっている資源で、「化石燃料」と呼ばれています。それを掘り出して、車を動かしたり、ものをつくったり、燃やして電気をつくったりしてきました。でも、「化石燃料」は限りある資源。いずれなくなってしまうと心配されてきました。

そこに巨大な人口をかかえる中国とインドが急に豊かになってきました。この2つの国だけで人口が24億人。世界の人口のなんと3分の1です。彼らが日本人やアメリカ人のように車に乗り、電気をたくさん使うようになったら、「石油がなくなってしまう！」と多くの人が不安になり、石油

のうばい合いが起こりました。石油の値段は長い間1バレル30～50ドルくらいでしたが、去年、140ドルまで上昇してしまったのです。世界中で大騒ぎになりました。車も気象に乗れなくなってしまったからです。みんなこまりながらも「石油は高いし、二酸化炭素の問題もある。環境に良い新エネルギーを考えよう」となったわけです。

そしていま注目されているのが「太陽光パネル」と「電気自動車」です。「太陽光パネル」は石油を使わない発電。「電気自動車」はガソリンを使わない自動車です。でも、これが日常的に使われるようになるためには、大きな課題があります。それは「電池」です。いくらおうちの屋根に太陽光パネルを設置して電気をつくっても、それをためておけなければ太陽が出ていないときはこまります。いくら電気自動車をつくっても、遠くまで走れなければ、買っても仕方ありません。それにはたくさんの電気をためることができる「電池」の開発が不可欠なのです。とくに電気自動車にの



ショッピングセンターの屋上に設置された太陽光パネル
〓二〇〇九年四月、愛知県高浜市で
©朝日新聞

せる電池は安全でなければなりません。事故で爆発などしたら大変なことになりますから、電池をつくるのは高い技術が必要です。でも、うれしいことに、いま、電池の開発で世界をリードしているのは日本なのです。しかし、アメリカも中国もヨーロッパもみな、電池の開発競争に必死になり始めました。日本の製造業も負けていられません。電池技術のリードをさらに大きくできるようにがんばっています。

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-brj.co.jp/uchida/>